

業をはじめとして医療・医薬品・食糧・エネルギー、ITと総合化学メーカーへの道のりを歩む太陽ホールディングスは、照沼がようやく辿り着いた「ベストな環境」なのだという。

「太陽ホールディングスは、社員同士の距離の近さ、グループ間の連携の密度、組織の成長スピードなど、どれをとっても私にはベストだと感じます。自分が会社に貢献している『手触り』を感じながら働けるんです」。

ベンチャースピリットはあるが70年近い歴史を持ち、世界トップシェアの製品を製造・販売し、多彩なフィールドがあるためキャリアの選択肢が豊富にある。

エレクトロニクス、医療・医薬品、食糧・エネルギー、IT、人の多様性が、事業の多様性を支える

1950年代、印刷用インキの製造販売を目的として設立された同社は、70年代に入るとソルダーレジストと呼ばれる絶縁材料の開発に大きく舵を切り、やがて世界60%のシェアを握るリーディングカンパニーまで成長した。ソルダーレジストとは、電子機器の中核であるプリント配線板を保護する絶縁材料で、PCやスマートフォンなどの電子機器には欠かせない材料だ。エレクトロニクス事業で着実に存在感を増していく一方で、2015年には食糧・エネルギー事業を開始。2017年には医療・医薬品事業にも参入するなど、「総合化学企業」としての成長を続けていく。

「世界トップシェアを誇る製品を有する化学メーカーなので技術職の活躍の場はもちろん、総合職にとっても非常に魅力的な職場です」。30代にして経理部長を務める照沼には、現在10人の部下がいる。照沼のよくな転職組もいれば、新卒組もいる。会計士もいれば、ベンチャーエンジニアもいる。「バックグラウンドが異なるメンバーがいて違和感がないのは、もともとこの会社のカルチャーが多様性を重んじてきたからだと思ふんです。そうでなければここまで多岐に渡る事業展開することは不可能ですし、海外の関連会社を東ねることもできません。経理・営業・総務など総合職の仕事はいくつもありますが、多様性は共通点ですね」。

**太陽ホールディングス
だからこそ実感できる
社会に役立っているという手触り**

海外拠点が増え続けているいま、チームワークと個人の成長が不可欠

ビジネスパーソンとして照沼が心がけているのは、「人の成長を促す」ということだという。それはメンバーだけでなく、自らのスキルアップを含めた視点だ。そのためこそ、「自然にお互いを受け入れ合う状態を重んじたい」のだと照沼は語る。「お互いにエンターテイメント合いながら一緒に階段を上がる。一人で成功を勝ち取るのではなく、みんなで成果を分かち合う。チームワークの根本は、自分が困った時に助けを求める意識があって初めて、人は働きがいを感じられるし、成長もできるはずです」。

中国、韓国、台湾、シンガポール、タイ、北米…。海外法人の社長や経理担当者とも直接に連携しなければならないホールディングスの経理部だからこそ、気を配ることもある。「海外拠点が増えれば、現地社員とコミュニケーションをとる機会も増えます。私たちのチームはそうした異文化のハブのような位置にいる。海外拠点は将来のキャリアの選択肢でもあるわけですから、仲間意識を持ちながら業務を推進していくことが大切ですね」。

「ロナフロによって、本社員はリモートワークを余儀なくされた。伝票や請求書といった紙の書類が多い中リモートでグループの決算をしっかりとやり遂げることができたことは、「チームワークを示すエビソードとして、照沼の大きな誇りになっている。

最高の場所に、最高のチームをつくり、この変化の時期をともに味わいたい

とりわけこの数年、太陽ホールディングスは新たなフィールドへの挑戦が続いている。新規事業に乗り出し、M&Aによってグループ会社が増え、海外拠点も増加の一途だ。「新しいことにチャレンジができるのは、財務基盤が安定しているからですが、自律型人材が育っている証でもあります」と照沼は分析する。だから、「受け身ではなく積極的に考え、動ける若者に向いている」と語る。

組織の変革を体感できることは刺激もあるが、もちろん困難さも伴う。だが、照沼はそんな状況の中だけ

の仕事は、どのように社会に役立っているのだろう。それが8年勤めて感じた照沼の本音だった。照沼はリアルな「手触り」を欲するようになっていた。

「その後、広報採用、IPOに向けた準備など、ビジネスパーソンとしては比較的幅広い経験を積んできたつもりです。もちろん「手触り」のある仕事もありました。でも今度は、もう少し規模感のあるビジネスに携わりたいという想いも抱くようになってしまって(笑)」。

そんな折に出会ったのが、太陽ホールディングスだった。「社会の役に立つ。培ってきた経理実務をスキルアップさせられる。そして、何より会社が成長の過程にある。本当に「ベストな環境」と巡り合えた気がします」。

から育まれる「絆」に重きを置く。「数年後に、太陽ホールディングスが世の中から「何業」と思われているか、私にもわかりませんが、この変化と一緒に楽しめる仲間と一緒に増やしたい」。

最高の場所で、最高のチームをつくる。それが、あらゆるビジネスシーンを見てきた照沼の、偽らざる目標なのだ。

世界トップシェアの技術を誇り、次々に海外進出を進めているいまこそ、人と人の近さや、チームワークで、変化を楽しむ自分でいたい。

Kaori Terunuma

グローバル企業からITベンチャーまで、3つの企業を渡り歩き、経理だけでなく広報や人事の業務も経験してきた照沼が「さらなる飛躍の場」として選んだ太陽ホールディングス。世界トップシェアの製品を開発し、グループ2,000人の従業員を抱えているにもかかわらず、人と人の距離が近い社風がその決め手だったという。趣味としてペリーダンスにも熱心に取り組み、プライベートの充実も大切している。

この規模、この成長スピードで、この社員同士の距離感は他社にない良さ

新卒で大手総合商社に入社し、NPO法人に転職、さらに一トーンチャーを経て、太陽ホールディングスに至るという。実に多彩な社会人経験を持つ照沼がおり、いま「終の住処をみつけたような居心地の良さを感じている。20社を超えるグループ企業を合わせると合計約2000人の従業員を抱え、エレクトロニクス事務

太陽ホールディングス 株式会社

経理部長 照沼 かおり

大学時代、国際開発学のゼミに所属していた照沼は、「フェアトレード」という仕組みを知り、「社会の役に立つ仕事を志すようになる。その意味で総合商社は、ビジネスの種を見つけて投資をする一方で、途上国の発展に寄与できる仕事に思えた。入社して経理畠に身を置き、巨大カンパニーの決算に触れ、ペーパーやチケットを経験。帰国後は金属資源の投資もしたところは、多くの経験を積んでいます。」

Company Information

世界シェアNO.1を誇るリーディングカンパニー

太陽ホールディングスは、あらゆる電子機器に使用されるソルダーレジスト(以下、SR)で世界トップシェアを誇る化学メーカーです。SRは、みなさんのお手元にあるスマートフォンやPCなどのIT機器やデジタル家電、車載用電子機器など世界のエレクトロニクス製品に幅広く使用されています。当社ではこのSRを主力製品とするエレクトロニクス事業で50年以上安定した利益を生み出し続け、現在ではその利益を元に、医療・医薬品・食糧・エネルギー、ITなど幅広い事業領域に挑戦しています。ニッセイグループとして活躍し続ける当社は、老舗企業としての安定した資本と、ベンチャー企業のようなチャレンジングなカルチャーを両方備えています。そんな太陽ホールディングスで、予想をはるかに超える「ワクワク」とともに生み出しませんか?

会社概要

社名／太陽ホールディングス株式会社 英文社名／TAIYO HOLDINGS CO., LTD.
創業／1953年(昭和28年)9月29日 資本金／94億9,984万円 代表取締役社長／佐藤 英志
本社所在地／〒171-0021 東京都豊島区西池袋一丁目11番1号 メトロポリタンプラザビル16階



業をはじめとして医療・医薬品・食糧・エネルギー、ITと総合化学メーカーへの道のりを歩む太陽ホールディングスは、照沼がようやく辿り着いた「ベストな環境」なのだという。

「太陽ホールディングスは、社員同士の距離の近さ、グループ間の連携の密度、組織の成長スピードなど、どれをとっても私にはベストだと感じます。自分が会社に貢献している『手触り』を感じながら働けるんです」。

ベンチャースピリットはあるが70年近い歴史を持ち、世界トップシェアの製品を製造・販売し、多彩なフィールドがあるためキャリアの選択肢が豊富にある。

1950年代、印刷用インキの製造販売を目的として設立された同社は、70年代に入るとソルダーレジストと呼ばれる絶縁材料の開発に大きく舵を切り、やがて世界60%のシェアを握るリーディングカンパニーまで成長した。ソルダーレジストとは、電子機器の中核であるプリント配線板を保護する絶縁材料で、PCやスマートフォンなどの電子機器には欠かせない材料だ。エレクトロニクス事業で着実に存在感を増していく一方で、2015年には食糧・エネルギー事業を開始。2017年には医療・医薬品事業にも参入するなど、「総合化学企業」としての成長を続けていく。

「世界トップシェアを誇る製品を有する化学メーカーなので技術職の活躍の場はもちろん、総合職にとっても非常に魅力的な職場です」。30代にして経理部長を務める照沼には、現在10人の部下がいる。照沼のよくな転職組もいれば、新卒組もいる。会計士もいれば、ベンチャーエンジニアもいる。「バックグラウンドが異なるメンバーがいて違和感がないのは、もともとこの会社のカルチャーが多様性を重んじてきたからだと思ふんです。そうでなければ今まで多岐に渡る事業展開することは不可能ですし、海外の関連会社を東ねることもできません。経理・営業・総務など総合職の仕事はいくつもありますが、多様性は共通点ですね」。

1950年代、印刷用インキの製造販売を目的として設立された同